

みちのく快走

今年は暖かい冬を反映してか桜前線の北上が十日ほど早い。例年では三月末に本州南岸に上陸した桜前線が一〇日ほどで白河の関を越えて“みちのく路”に入り津軽海峡に抜けるのが4月末となつて倍の3週間ほどかかる。冬枯れの野に春が芽吹く早春前線の北上から始まり桜前線が通過して新緑へ移ろう。季節の変化の速さと列島がいかに南北に長いかを最も判るのが春の季節であり、弓状列島で緯度幅が五〇〇キロメートルを越える南北に長いみちのくは、列島のなかで季節の横縞模

て十和田湖を訪れ、現在ではリアス縦貫鉄道が走っている三陸海岸を久慈から宮古まで三日かけ歩き、磐越東線から釜石線や陸羽東線から山田線、花輪線、下北線半島の大湊線までローカル線を十二分に堪能した。みちのくの旅をさせてもらつた。その後、何度も訪れたが五能線と田沢湖線だけは乗れず仕舞で心残りとなつていた。

秋田新幹線の開通で秋田から五能線への直通が走ると聞いて、今度こそは夕日の沈む日本海眺めてノンビリ乗つてみた。最近は雪の磐梯山や残雪の鳥海山や月山など、もっぱら中高年山歩きで尋ねる機会が多くなつていて、世界遺産に登録されている白神山地をはじめ朝日連峰、飯豊の山々そして早池峰山と懐の深い自然がいまなお残っている。東京へますます近くなつたとはいえ、暗さと懐の深さをもつた郷愁を感じさせてくれる“みちのくらしさ”を失つた時には、繰返し行き

(村松 照男)

秋田新幹線はさらに一〇〇キロほど沿いに秋田へのびて、東京から三時間四九分で着く。俳句ざんまいの足だけの旅から三〇〇年の時をへて五百分の二となつた。越後ではほくほく線が開通して上越新幹線、北陸新線の特急で東京・金沢間が三時間十五分に短縮され、函館・札幌の特急とほぼ同じ時間となつて日本列島が一層縮んでしまつた想いが深い。三〇年ほど前の春休みに、東北均一周遊券で周ったときは、雪の発荷峠を越え